

僕は何も取り柄のない普通の  
中学生だった  
そんな僕も祭りには行った  
金魚すくい スーパーボール  
水風船 かき氷  
景品クジ 焼きとうもろこし  
型抜き 今川焼き  
お好み焼き 浮き輪  
イカ焼き ラムネジュース

かりかり

# 夏の日は夕暮れ

きらく家しゅうへい

その難易度は  
至難の技である  
なんでこんな事を  
しているのか  
分からない程に  
要するに僕は...

何でねえ?

ああっ

特に型抜きとは  
シビアな世界で  
その成功の判断は  
店の主人に委ねる  
上手く出来たら  
お金をくれると  
言っている側が  
駄目だと言われ  
またやり直す  
成功すればそれ  
お金となつて戻  
型抜きとは人生  
とはいえ僕は型  
完成させてはい

## とても退屈なのだ

夏の日は夕暮れ

# 夏の日は夕暮れ

Summer days are sunsets

君に出会って

本当の愛を知った

君に出会って

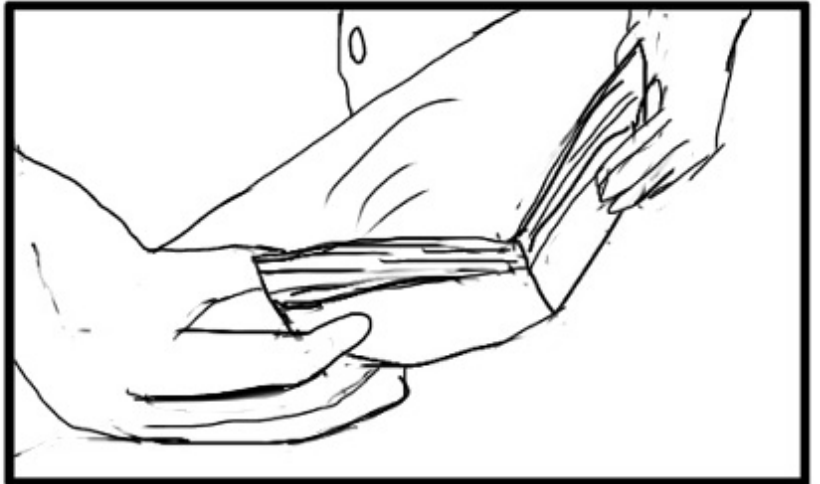
愛の意味を知ったよ——。



もうすぐ夏休みだ  
学校では図書室で涼んでいたりする  
学校にも色々な人間がいて  
合わないなど色々問題もあるが  
僕はその世界で中の下ではあるが  
この図書室という世界は  
その効果を無力化する沈黙という  
秩序があるのだ  
それがとても心地よかった



ずっとそれは僕の中にあった  
想っていた  
この退屈な日々を変えたい  
変わらない町  
変わらない日々  
変わらない生活  
変わらない人々



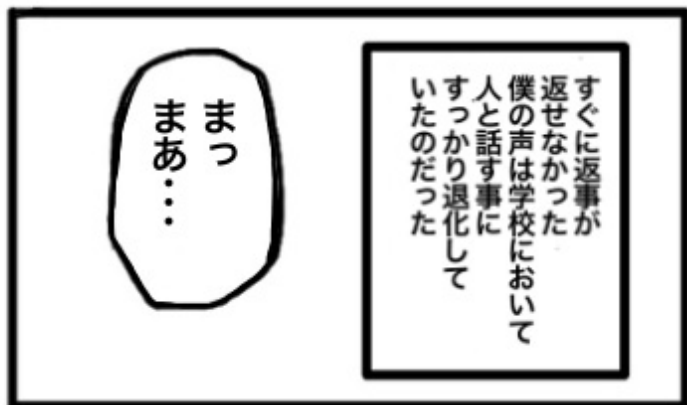
まだクーラー  
寒くなってきたよんね

ねえっ





彼女と僕とは違う人間に見えた  
普段から話しかけてくる女子などいるわけもなく最初は戸惑った  
だがその確実に学校のマドンナの取り巻きくらいにはいるであろうその女子は紛れもなく僕に話しかけているのだった



すぐに返事が返せなかった僕の声は学校において人と話す事にすっかり退化していたのだった

まっ  
まあ...



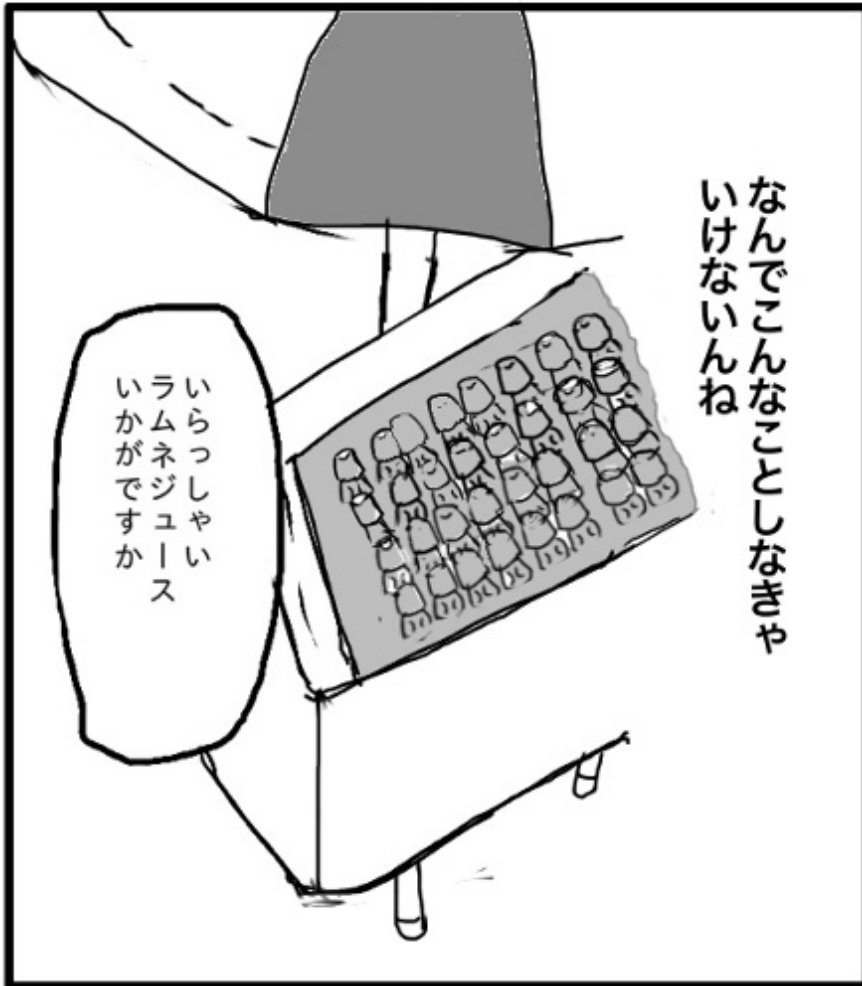
えっ  
いや  
ちよっと...

なら手伝って



夏村 智 (14)

アイ  
帰らないのいま時間ある?



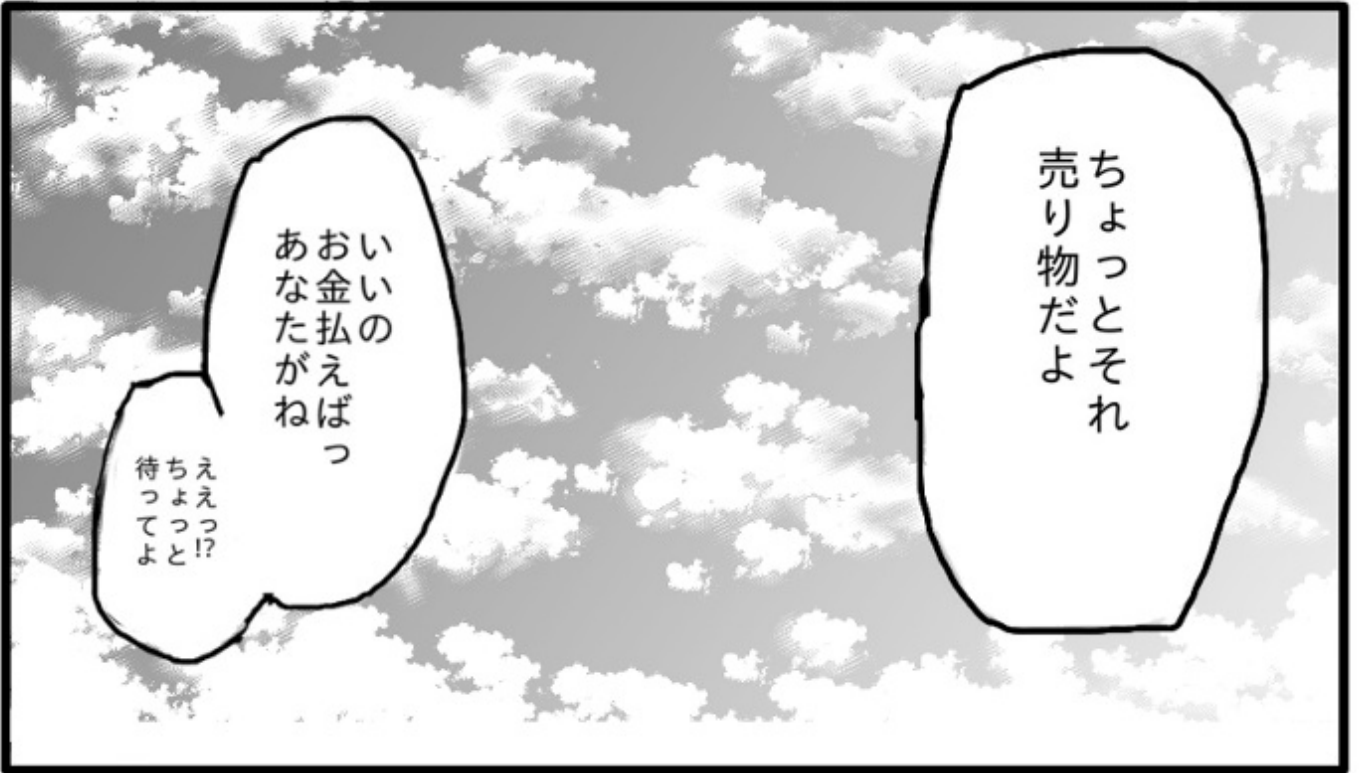
なんでこんなことしなきゃ  
いけないんね



彼女に付いて行った僕は  
祭りの屋台でジュースを  
売ることになった  
それが奔放なその  
女子との出会いだった  
だが僕は正直その状況を  
楽しいと思っていた  
その夏休みの中で  
僕は自分の見たことのない  
物を見てそして  
心底に後悔する事になる  
彼女の壮大な目論見に……



そして彼女のことを  
西村晴子を  
大好きになる



ちよつとそれ  
売り物だよ

いいの  
お金の  
あなたがねばっ  
ええっ!?  
ちよつと  
待ってよ